

自己肯定感を育む ふるさと教育



中橋 恵美子

家庭教育応援講座講師

NPO法人わははネット 理事長

讃岐おもちゃ美術館 館長

はじめに

「ふるさと教育」とは、地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業といった地元の資源（「ひと・もの・こと」）を活かし、学校・家庭・地域が一体となって、ふるさとに誇りを持ち心豊かでたくましい子どもを育む教育を指します。私自身も、様々な地元の人と出会い、地元を走り回ることの魅力に気づき、多くの経験・体験をさせてもらうことで少しずつ自己肯定感を伸ばしてきたように思います。

子育て中の保護者が、どれだけ地元の魅力を知る努力をし、子どもにそれを語ってきたのか、地元の「ひと・もの・こと」に触れる体験・経験を家庭や地域で子どもたちに提供できているか。もっと当たり前前に地元の魅力に触れて育つ環境を作ることが重要です。

讃岐おもちゃ美術館とふるさと教育

2017年全国学力・学習状況調査で、香川県における小学生・中学生の「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」などの回答が、全国平均より低い傾向にあることを知り、子どもたちの自己肯定感を上げるために非認知スキルを伸ばす活動ができないかと考え始めたことをきっかけとして、讃岐おもちゃ美術館を開館しました。

香川県は、ものづくりがとても豊かで素晴らしい県です。そして面積が狭くても豊かな山があり様々な草木が身近にあります。伝統工芸の数も多く、それぞれに古からの物語があるのです。子どもたちが気付いたら当たり前前にそれらに触れ、知る機会を持てるという構想のもとに創られた讃岐おもちゃ美術館には、香川漆芸3技法を使った漆の滑り台、見事な讃岐のり染めの油単と獅子頭、庵治石のゆりかごやサヌカイトのチャイム、小豆島の木桶を使った茶室や高松の松盆栽と讃岐かがり手まりがコラボした手まり盆栽等々、伝統工芸士やモノづくりに携わる方々が、子どもたちのためにアイデアを出し、腕を振るって作ってくれたものがたくさんあります。県外や海外からの観光客が、香川の伝統工芸や石や木を見て「wonderful!」と声を上げるのを聞きながら、子どもたちは、当たり前前に思っていた自分の身の回りの環境を特別なものだと気づき、その特別な環境の中で育まれてきた自分のことを「特別な存在」として認めていくことができるのではないかと思います。

ある日、「うわ～このすべすべの綺麗な木は何だろう」と言っている大人に、小豆島から遊びに来た子どもが「それは小豆島のオリーブです。オリーブの魅力は・・・云々」と得意げに語っていました。そんな風に胸を張って地元を語れる子どもたちは、将来もし県外に出たとしても堂々と自信を持って活躍できるのではないかと思います。

保護者であり地域の大人として

家庭教育は、家庭の中だけで完結するものではありません。自分の子どもだけでなく、地域の子どもたちと積極的に関わり、さりげなく地元の素晴らしい「ひと・もの・こと」を伝え、“当たり前にある特別な存在”を語る大人がもっともっと増えることが、子どもにとってとても良い影響があるのではないかと思います。

そのためには、我々大人がもっと広く地域に目を向け、積極的に地域活動をする事、そして、活動を通してたくさんの出会いと経験をしながら大人の成長していく背中を子どもたちに見せることも必要かもしれません。

「生まれてよかった」「やればできる」「大好きな故郷香川を誇りに思う」

そんな子どもたちがこれからもたくさん育つよう、家庭でもふるさとの魅力を伝え、小さな成功を子どもに体験させてあげましょう。

讃岐おもちゃ美術館： <https://npo-wahaha.net/stm/>

